

第3章 パーソナリティと適応の姿

中原睦美

はじめに

老いと「頑固」「保守的」あるいは「非生産的」「出不精」になるなどの老年の神話が長く信じられてきました。しかし、パーソナリティはその人が生まれ育った時代背景や社会環境、社会通念に影響されやすく、ピック病などの器質性疾患を除くと、若い頃から一貫している面が多いとされます。素質と環境因の論争を経て、近年はその安定と変化の要因が注目されています。老年期の適切な理解や支援のためにも新たな知見が期待される学問領域です。

1 パーソナリティの定義

パーソナリティの概念には、人格、気質、性格、態度、役割などがあり、図1に示す構造にあります。外側の円になるほど環境や経験による影響が大きくなります。定義は、Allport, G.W. (1961) の「個人を特徴づけている行

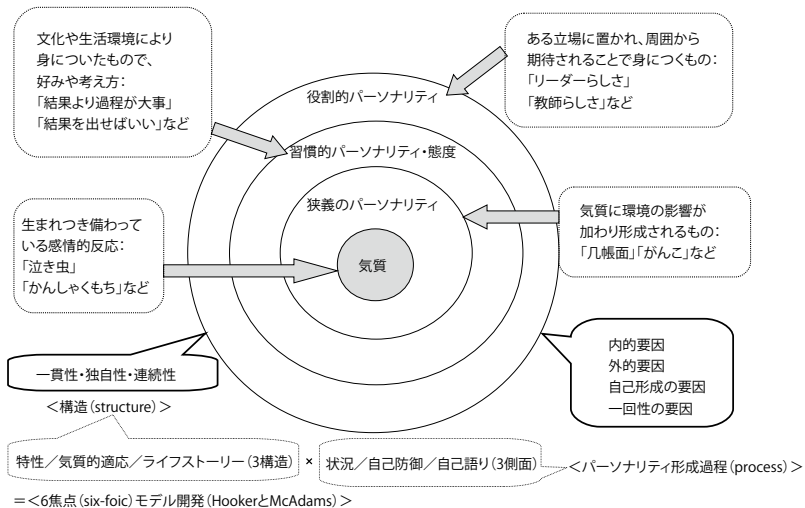


図1 パーソナリティの構造 (structure)

(山田 (2000), Hooker と McAdams (2003) を元に中原が加筆して作成)